

地方会議（大阪府東大阪市）

1. 日時、場所

平成24年4月21日（土） 14時30分～16時35分
クリエイションコア・東大阪 南館技術交流室B

2. 参加者

地元の若手・女性の中小企業経営者等 125名

3. 参加者の意見

（1）出された意見数（課題別）

全体意見数	35
資金調達	3
経営指導・経営支援	9
技術力・人材（技能承継等）	2
取引関係（下請取引・流通構造等）	0
販路開拓（海外展開等）	1
若手・青年層の活力発揮	2
女性層の活力発揮	4
「地域」の中の中小・小規模企業（商店街等）	5
その他	10

（2）主な意見

【資金調達】

- ・ 大阪には地域密着型で、さまざまな特性・特色を出そうとしている金融機関が沢山あるが、実力のある中小企業に対し融資したいと思っても、担保物件価値が下がっているため、その担保価値に見合った分しか融資が出来ず、企業価値に見合った融資が出来ていないのが現実。

【経営指導・経営支援】

- ・ いい補助金があっても使いこなせる知識がないので、コーディネーターの養成などぜひお願いしたい。
- ・ 国や県の施策は規制の面が強いと感じている。非常に書類が多いなど、制度設計そのものを変える必要があると思う。
- ・ マル経融資は零細企業にとって重要な支援策であるためずっと続けていただきたい。

【技術力・人材(技能承継等)】

- ・ 商工会の地域は3ちゃん経営、家族経営の事業者が多く、社長業、事務、営業なにもかも一人が担っているため、現場で作業しながら、他のことをやるのが難しい。田舎でも事業承継がうまくいかず、先代・先々代から続く借金をどうするかなど問題も多く、田舎であっても事業承継がうまくいかない状況にある。

【販路開拓(海外展開等)】

- ・ 円高を前提にして海外展開の在り方をよく考えないといけない。我が国でも頑張っていてさらに海外に出るということなら良いが、我が国にいくらいか海外展開というのはおかしいと思う。

【若手・青年層の活力発揮】

- ・ 若手が起業する際、どうしても失敗をしてしまう。立ち上げる熱意を持っていて再度やりたいと思っても、日本の風土として一度失敗したものは認めてもらえない。負け犬の烙印を押されてしまい、リスタートできない。暖かく見守るといっても国が先導してやってほしい。

【女性層の活力発揮】

- ・ フレックスや在宅など自由な働き方が必要。子育てしているお母さんの就業形態はほとんどがパートであり、国公立大学を出ている人が自給に800円のバイトをしているという現実、これは非常にもったいないことである。
- ・ 大きな会社だと男性の育児休暇の取得や介護で休むこともできるが、まだまだ十分でないと思う。女性が働き続けることができる環境整備をお願いしたい。

【「地域」の中の中小・小規模企業(商店街等)】

- ・ いろいろな助成金を活用しているが商店街は厳しい状況にあり、地域コミュニティの中心的役割を果たせていない。やる気のある商店街や企業には補助率を引き上げ、複数の補助を受けられるようにしてほしい。

【その他】

- ・ 国においては、「中小企業が日本の経済をけん引する力」という考え方を日本国民に周知していくこと、それをまずお願いしたい。